

令和7年度 シラバス				
科目名	人間の理解Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	小林桂子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
人権や権利擁護についての日本や諸外国の歴史的経緯を学ぶ。 「人間」の多面的な理解を図ることを基礎として、介護福祉士に求められる人権尊重や権利擁護について学び、自立（自律）の考え方や、尊厳を守る介護と自立支援の視点を考察する。				
到達目標				
①介護を必要としている者の全人間的理解、介護福祉士としての倫理基盤を涵養することができる。 ②人間の尊厳を保持し、自立した生活を支える必要性について理解する。				
準備学習				
事前学習：テキストに目を通してくること（該当ページは授業内にて指示） 事後学習：授業の理解度をはかるため、必要に応じて小テストを実施（事前に授業内にて指示）				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」第2版 中央法規 ワークシート（授業時配布）			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス/人間の尊厳と個人の尊厳	科目概要の説明/人間を理解することとは
2	人間の尊厳と利用者主体	利用者主体を理解する
3	権利擁護の歴史的経緯	人権思想の潮流を知る
4	人権、そして尊厳に関する日本の諸規定	尊厳に関する諸規定を知る
5	社会福祉領域での 人権・福祉理念の変遷	人権・福祉理念の変遷を知る
6	社会福祉領域での 人権・福祉理念の変遷	人権・福祉理念の変遷を知る
7	人権尊重と権利擁護	利用者の権利と、権利を擁護することについて考える
8	権利侵害の現状と背景	権利侵害の現状を知り背景を考える/優生保護法について考える
9	自立のあり方	身体的・精神的・社会的自立とは、自立の概念の多様性を学ぶ
10	自立を支える介護とは	自立とは何か、欠かせないものを考える
11	介護における自立支援の実践	自立支援に必要な視点を考える
12	尊厳を守る介護と自立支援の関係性 （実情と課題）	尊厳を傷つけ、損なう可能性のある介護とは何かを考える
13	尊厳を守る介護とは	尊厳を守る介護とは何かを事例をもとに考える
14	介護における尊厳保持の実践(まとめ)	尊厳を守る介護を実践するために介護福祉士として何が必要かを考える
15	まとめ	定期試験（全授業に関する試験）、解説

令和7年度 シラバス				
科目名	人間の理解Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	小林桂子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
対人援助を行うためには、利用者との良好な人間関係の構築が必要である。人間の理解Ⅰ「人間の尊厳と自立」で学習したことを踏まえながら、専門職として必要な基本的態度の習得や、対人関係を形成するために必要なコミュニケーションの基礎的な知識を身につける。				
到達目標				
①良好な人間関係を構築するために必要なコミュニケーションの意義と機能について理解する。 ②組織において求められるコミュニケーションについて理解する。				
準備学習				
事前学習：テキストに目を通してくること（該当ページは授業内にて指示） 事後学習：授業の理解度をはかるため、必要に応じて小テストを実施（事前に授業内にて指示）				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」第2版 中央法規 ワークシート（授業時配布）			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス・人間と人間関係	科目概要の説明/自己理解を深める
2	人間と人間関係（他者理解）	自己理解を踏まえ、他者理解を深める
3	人間関係形成のために必要なこと	自分と他者の理解、自己覚知を深める
4	発達心理学からみた人間関係	人間の段階的な発達という観点から、人間関係の広がりを考える
5	社会心理学からみた人間関係	集団がもつ心理学的な力が、人間関係にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ
6	人間関係とストレス	ストレスについて考え、適切に対処するための方法を学ぶ
7	対人関係におけるコミュニケーションⅠ	コミュニケーションの概念と基本構造を学ぶ
8	対人関係におけるコミュニケーションⅡ	コミュニケーションの手段を学ぶ（言語的コミュニケーション）
9	対人関係におけるコミュニケーションⅢ	コミュニケーションの手段を学ぶ（非言語的コミュニケーション）
10	対人援助関係とコミュニケーションⅠ	人間関係と発展や後退とコミュニケーションのあり方について学ぶ
11	対人援助関係とコミュニケーションⅡ	対人援助における基本的態度を考える
12	対人援助関係とコミュニケーションⅢ	バイステックの原則を学び、対人援助の基本的原則を理解する
13	組織におけるコミュニケーションⅠ	組織の存在とコミュニケーションの特徴、情報の流れについて学ぶ
14	組織におけるコミュニケーションⅡ	組織において、どのようなコミュニケーションが求められるのかを考える
15	まとめ	定期試験（全授業に関する試験）、解説

令和7年度 シラバス				
科目名	人間の理解Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期	1	講義
担当教員	小林桂子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
介護実践においてマネジメントするために必要な「介護実践におけるチームマネジメントの意義」「ケアを展開するためのチームマネジメント」「人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント」「組織の目標達成のためのチームマネジメント」等を中心に学習する。				
到達目標				
①ケアを展開するために必要なチームの構成や役割について考えることができる。 ②チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を習得することを目指す。 ③介護福祉士の多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。				
準備学習				
事前学習：テキストに目を通してくること（該当ページは授業内にて指示） 事後学習：授業の理解度をはかるため、必要に応じて小テストを実施（事前に授業内にて指示）				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。				
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座第1巻「人間の理解」第2版 中央法規 ワークシート（授業時配布）			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス/ ヒューマンサービスとしての介護サービス	科目概要の説明/ヒューマンサービスとしての介護サービスを学ぶ
2	介護現場で求められるチームマネジメント	介護人材を取り巻く現状を知り、介護福祉士が介護福祉職のリーダーとして担うべき役割を学ぶ
3	介護実践におけるチームマネジメントへの 取り組み	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントについて学ぶ
4	ケアを展開するために必要なチームとその 取り組み	ケアを展開するために必要なチームの取り組みについて考える
5	チームでケアを展開するためのマネジメント	介護現場における情報共有と役割分担について考える
6	チームの力を最大化するためのマネジメント①	チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォローシップについて考える
7	チームの力を最大化するためのマネジメント②	チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォローシップについて理解する
8	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	キャリアを知り、キャリアに応じて求められる実践力を学ぶ
9	介護福祉職としてのキャリアデザイン	介護福祉士としてのキャリアをイメージする
10	介護福祉職のキャリア支援・開発	人材育成（OJT、Off-JT、スーパービジョン等）を学ぶ
11	自己研鑽に必要な姿勢	自己研鑽が求められる理由と自己研鑽の方法について学ぶ
12	介護サービスを支える組織の構造	質の高い介護サービスは、組織的に支えられていることを理解する
13	介護サービスを支える組織の機能と役割	組織がどのような役割・機能を果たしているかを学ぶ
14	介護サービスを支える組織の管理	組織がどのような構造になっているか、そのように管理されているかを学ぶ
15	まとめ	定期試験（全授業に関する試験）、解説

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
科目名	社会の理解Ⅰ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
介護福祉学科	1年	前期	1	講義	1	社会と生活のしくみ 1	オリエンテーション／生活の基本機能
担当教員	川村仁美				2	社会と生活のしくみ 2	ライフスタイルの変化／家族の機能と役割
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。				3	社会と生活のしくみ 3	社会・組織の機能と役割／地域、地域社会／地域社会における生活支援
授業概要					4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 1	地域福祉の発展
地域社会における生活とその支援、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的としている。 「社会の理解Ⅰ」では、地域社会での生活と支援について、①社会と生活のしくみ、②地域共生社会の実現に向けた制度や施策、③社会保障制度の基本的な考え方やしくみを理解する科目である。					5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 2	地域共生社会／地域包括ケア
到達目標					6	まとめ	第1回～第5回のまとめ
・地域における生活の構造について学び、生活の基本機能とライフサイクルを理解できる ・生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方やしくみを理解できる ・社会保障制度の基本的な考え方やしくみを理解できる					7	社会保障制度 1	社会保障の基本的な考え方
準備学習					8	社会保障制度 2	日本の社会保障制度の発達①
【講義前】UMUにて配布される講義資料を確認すること 【講義後】講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること 小テストの問題を振り返り、国家試験の出題問題や傾向を理解すること					9	社会保障制度 3	日本の社会保障制度の発達②
成績評価					10	社会保障制度 4	日本の社会保障制度のしくみ①
定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）					11	社会保障制度 5	日本の社会保障制度のしくみ②
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解【第 2 版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集 中央法規出版株式会社/発行				12	社会保障制度 6	日本の社会保障制度のしくみ③
					13	社会保障制度 7	現代社会と社会保障制度
					14	まとめ	第7回～第13回のまとめ
					15	定期試験	期末試験および解説
							※小テストの実施は、都度お伝えします



令和7年度 シラバス				
科目名	社会の理解Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	川村仁美			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
地域社会における生活とその支援、社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につけることを目的としている。 「社会の理解Ⅰ」では、地域社会での生活と支援について、①社会と生活のしくみ、②地域共生社会の実現に向けた制度や施策、③社会保障制度の基本的な考え方やしくみを理解する科目である。				
到達目標				
・地域における生活の構造について学び、生活の基本機能とライフサイクルを理解できる ・生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方やしくみを理解できる ・社会保障制度の基本的な考え方やしくみを理解できる				
準備学習				
【講義前】UMUにて配布される講義資料を確認すること 【講義後】講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること 小テストの問題を振り返り、国家試験の出題問題や傾向を理解すること				
成績評価				
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集 中央法規出版株式会社/発行			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 1	オリエンテーション／障害者保健福祉の動向／障害者の定義
2	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 2	障害者保健福祉に関する制度①（障害者福祉の歴史）
3	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 3	障害者総合支援制度① （障害者総合支援制度の目的／障害福祉サービスの種類と内容）
4	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 4	障害者総合支援制度②（自立支援給付と地域生活支援事業／障害福祉サービス利用手続き／障害支援区分の認定／相談支援）
5	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 5	障害者総合支援制度③ （市町村、都道府県、国の役割／財源と利用者負担）
6	障害者保健福祉と障害者総合支援制度 6	障害者保健福祉に関する制度② （障害者保健福祉の法律、障害児に対する支援制度）
7	まとめ	第1回～第6回のまとめ
8	介護実践に関連する諸制度 1	貧困と生活困窮に関する制度 （生活保護法／生活困窮者自立支援法／その他）
9	介護実践に関連する諸制度 2	個人の権利を守る制度①（虐待防止に関する制度）
10	介護実践に関連する諸制度 3	個人の権利を守る制度② （サービス利用に関する制度／消費者保護に関する制度）
11	介護実践に関連する諸制度 4	個人の権利を守る制度③（その他の個人の権利を守る制度） 保健医療に関する制度①（保健医療に関する制度）
12	介護実践に関連する諸制度 5	保健医療に関する制度② （生活習慣病、結核・感染症、HIV/エイズの予防・対策に関する制度）
13	介護実践に関連する諸制度 6	地域生活を支援する制度 （就労支援・雇用促進、住生活支援、自殺予防、その他）
14	まとめ	第7回～第13回のまとめ
15	定期試験	期末試験および解説
		※小テストの実施は、都度お伝えします

令和7年度 シラバス				
科目名	社会の理解Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	鈴木正貴			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
この授業では、介護保険制度ができた経緯とその背景を学ぶ。また、この先にどのような制度や仕組みが社会から必要とされるのか、日本が今置かれている状況を理解する。今後期待される、福祉人材として広い視野を持ち現場さらには業界をリードしていく福祉人材の育成を目指す。				
到達目標				
社会保障制度がどのようにして変わってきたのか、制度の変遷を理解する。そのうえで、制度だけでは人々の暮らしは当然豊かにならない基本的な考え方を理解することがねらいである。また、これからの福祉人材である学生がしっかりと根拠や統計などを読み解き自らの力で考え情報を発信できることを目標とする。				
準備学習				
事前学習：テキストを事前学習し、講義内容を把握する。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。				
使用テキスト	中央法規出版「新・介護福祉士養成講座」 レジュメ・資料			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	制度理解に向けて
2	高齢者保健福祉の動向	高齢者保険福祉に関する歴史・人口の高齢化と高齢者保健福祉
3	高齢者保健福祉の動向	高齢者の健康保持と社会参加
4	高齢者保健福祉の動向	高齢者保健福祉における今日的課題と展望
5	高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢社会対策基本法
6	高齢者保健福祉に関連する法体系	老人福祉法・高齢者の医療の確保に関する法律
7	介護保険制度	介護保険制度創設の背景と目的
8	介護保険制度	介護保険制度の仕組みの基本的理解
9	介護保険制度	介護保険制度の仕組みの基本的理解
10	介護保険制度	介護保険制度の仕組みの基本的理解
11	介護保険制度	介護保険制度における組織
12	介護保険制度	団体の役割・介護保険制度における介護支援専門員の役割
13	介護保険制度	介護保険制度の動向
14	まとめ	試験対策
15	試験	試験対策

令和7年度 シラバス				
科目名	生活文化 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期,後期	1	講義
担当教員	キャリア支援課（大川拓馬 山田萌 桑山史人）			
実務経験	-			
授業概要				
皆さん一人ひとりが介護福祉士としてどのようなキャリア（職業人生）を歩みたいのか、卒業後の進路を共に考えるものです。 自分自身のことをよく知るための「自己理解」に焦点を当て、個人ワークを中心に進めます。 また、「職業理解」を図るために、社会福祉施設で働く現場の方による講話をオムニバス形式で実施します。				
到達目標				
・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。 ・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。 ・介護福祉士として活躍できる場を知り、自分なりの介護観を考える。				
準備学習				
毎回の授業の振り返りを行い、「自己理解」「職業理解」を深める。 ゲストスピーカーによる講話前にはその法人について下調べをする。 求人検索システムや施設ホームページを利用し、進路に関する情報収集をする。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	適時、資料配付。			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	4/14 授業概要の説明、成績評価の説明、2年間のキャリア支援について
2	キャリアとは	5/12 キャリア形成の考え方、自己理解の導入ワーク
3	自己理解①	6/9 キャリアの棚卸、キャリアを考える3つの視点
4	自己理解②	6/23 強みを考える
5	自己理解③	7/14 自己PR作成
6	職業理解①	8/25 特別養護老人ホーム編（ゲストスピーカーによる講話）
7	職業理解②	9/8 介護老人保健施設編（ゲストスピーカーによる講話）
8	職業理解③	9/29 オンライン 介護施設見学
9	自己理解④	10/20 自己PR発表
10	自己理解⑤	12/8 実習の振り返り
11	職業理解⑤	12/15 有料老人ホーム編（ゲストスピーカーによる講話）
12	職業理解⑥	1/19 障がい者施設編（ゲストスピーカーによる講話）
13	ワールドカフェ	1/26 ワールドカフェの手法を使った対話を通じ、介護・キャリアを考える
14	2年次に向けて	2/2 2年次の就職活動について、本科目の振り返り
15	まとめ	2/16 定期試験（全授業に関する論述試験）

令和7年度 シラバス				
科目名	生活文化Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	木下愛成（情報処理）・小菅真理子（レクリエーション援助法）			
実務経験				
授業概要				
【情報】PCの基本的な操作・情報リテラシーを修得する。Web検索、生成AIサービス、介護現場で必要なソフト等を紹介し、ICTの活用法を修得する				
【レク援助】レクリエーションの意義や考え方、方法について学習する。レク援助の実際を演習や実技を通して学び、必要な専門知識と技術を習得する				
到達目標				
【情報】PCの基本操作が行える。授業で扱うシステムの操作及び、卒後を見据えたICTサービスの活用・検討が行える				
【レク援助】実習等においてレクの立案・実施ができる。レク援助にどんな効果が期待できるか体験等を通して学ぶ。演習やグループワークを通し企画力、チームワークを養う				
準備学習				
【情報処理】日頃より自主的にPCを操作・実践すること。				
【レク援助】グループワーク前には放課後等に準備する場合もある。授業でおこなわれた練習問題や実技を自主的に復習すること。課題が出された場合は、提出日に間に合うように取り組むこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	【情報】参考資料：noa社「情報倫理ハンドブック」  【レク援助法】参考資料：公益財団法人日本レクリエーション協会発行：「楽しさをとおした心の元気づくり-レクリエーション支援の理論と方法 レクリエーション・インストラクターテキスト」			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	PC操作方法の理解	導入(授業概要および目標、成績評価)、PCの操作方法の理解
2	学内システムの利活用、情報リテラシー	Teams、UMU等の学校システムの利活用（確認）、情報リテラシーの理解（SNS利用含む）
3	OneDriveの理解・フォルダ整理法	ファイル・フォルダの整理方法の理解、実際の整理（OneDrive設定・利用）
4	ブラウザでの検索、生成AIの利活用	ブラウザでのネット検索方法修得及び、生成AIの利活用し、介護現場で利用されているシステム、ICT機器などを知る
5	デジタルノート、現場で利用サービス紹介	OneNoteの紹介、課題の提出：【ここまでは情報処理となる】※1回目に課題の提出、期限を設ける
6	レクリエーション援助法について	オリエンテーション：レクリエーションの基本的理解：【ここから教員が交代する】
7	介護現場のレクリエーションとは	実技①：「楽しみ」を知る活動
8	レクリエーション支援とコミュニケーション 1	実技②：ホスピタリティと信頼関係
9	レクリエーション支援とコミュニケーション 2	実技③：身体を動かそう
10	レクリエーションを通した元気づくり 1	実技⑤：リラックスや休息を提供する環境づくり
11	レクリエーションを通した元気づくり 2	実技⑥：臨床動作法の体験（ゲスト：公認心理師・上倉安代先生）
12	レクリエーションを通した元気づくり 3	実技⑤：レクリエーションを企画するうえで大切なことを知ろう
13	レクリエーション援助計画と実施 1	実技⑦：グループワーク活動を通してレクリエーションを企画する
14	レクリエーション援助計画と実施 2	実技⑧：グループワーク活動を通してレクリエーションを発表する
15	期末試験・解説	試験（60分）・解説（30分）
		※備考：【レク援助法】定期試験対策として、小テストを実施することもある。内容については事前に傾向や範囲を告知される。

令和7年度 シラバス

科目名	介護の基本 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期,後期	2	講義
担当教員	川村仁美			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うための科目である。</p> <p>「介護の基本 I」では、介護福祉の基本的知識の理解を目的とし、「介護福祉の基本となる理念」、「介護福祉士の役割と機能」、「介護福祉士の倫理」を学ぶ。</p>
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護ニーズおよび介護福祉を取り巻く状況を、社会的な課題としてとらえることができる</li> <li>・尊厳の保持や自立支援など、介護福祉の基本となる理念を理解することができる</li> <li>・さまざまな場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できる</li> <li>・介護福祉の専門性と倫理を理解し、専門職としての態度を養うことができる</li> </ul>
準備学習
<p>【講義前】UMUにて配布される講義資料を確認すること</p> <p>【講義後】講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること</p> <p>小テストの問題を振り返り、国家試験の出題問題や傾向を理解すること</p>
成績評価
<p>定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）</p>

使用テキスト	<p>介護の基本 I【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集 中央法規出版株式会社/発行</p>
--------	---

アルファ医療福祉専門学校 <介護福祉学科>

授業計画		
回数	単元	内容
1	介護福祉の基本となる理念 1	オリエンテーション／介護福祉を取り巻く状況①（介護の成り立ち）
2	介護福祉の基本となる理念 2	介護福祉を取り巻く状況②
3	介護福祉の基本となる理念 3	介護福祉を取り巻く状況③
4	介護福祉の基本となる理念 4	介護福祉の基本理念①（介護福祉の理念とは）
5	介護福祉の基本となる理念 5	介護福祉の基本理念②（尊厳を支える介護）
6	介護福祉の基本となる理念 6	介護福祉の基本理念③（自立を支える介護）
7	介護福祉の基本となる理念 7	介護福祉の歴史① （老人福祉法制定にいたるまでの社会福祉政策／1970年代）
8	介護福祉の基本となる理念 8	介護福祉の歴史②（1980年代／1990年代）
9	介護福祉の基本となる理念 9	介護福祉の歴史③（2000年以降）
10	介護福祉士の倫理 1	介護実践における倫理
11	介護福祉士の倫理 2	倫理的対応が必要な事例
12	介護福祉士の倫理 3	事例演習
13	介護福祉士の倫理 4	日本介護福祉士会の倫理綱領 （職業倫理／日本介護福祉士会倫理綱領）
14	まとめ	第1回～第13回のまとめ
15	定期試験	中間試験および解説
		※小テストの実施は、都度お伝えします

# 令和7年度 シラバス

## アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

科目名		介護の基本 I
16	介護福祉士の役割と機能 1	オリエンテーション／社会福祉士及び介護福祉士法①
17	介護福祉士の役割と機能 2	社会福祉士及び介護福祉士法②
18	介護福祉士の役割と機能 3	社会福祉士及び介護福祉士法③
19	介護福祉士の役割と機能 4	介護福祉士の活動の場と役割①（地域包括ケアシステム）
20	介護福祉士の役割と機能 5	介護福祉士の活動の場と役割②（介護予防）
21	介護福祉士の機能と役割 6	介護福祉士の活動の場と役割③（医療的ケア）
22	介護福祉士の機能と役割 7	介護福祉士の活動の場と役割④（人生の最終段階の支援）
23	介護福祉士の機能と役割 8	介護福祉士の活動の場と役割⑤（災害時の支援）
24	介護福祉士の機能と役割 9	介護福祉士の活動の場と役割⑥（事例演習①）
25	介護福祉士の機能と役割 10	介護福祉士の活動の場と役割⑦（事例演習②）
26	介護福祉士の機能と役割 11	介護福祉士に求められる役割とその養成①
27	介護福祉士の機能と役割 12	介護福祉士に求められる役割とその養成②
28	介護福祉士の機能と役割 13	介護福祉士を支える団体
29	まとめ	第16回～第28回のまとめ
30	定期試験	期末試験および解説
		※小テストの実施は、都度お伝えします

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	介護の基本Ⅱ①			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	2	講義
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
福祉・介護の専門職として自立を支える意味を、理論と実践の両面から学ぶ。介護を必要としている人を中心とするさまざまな「自立支援」について、専門職としての視点や、介護職としての基本的知識、スキルを習得する。 自立支援・介護予防の具体的な考え方や各種サービスの種類を知り、介護福祉士としての役割を学ぶ。				
到達目標				
①利用者を取り巻く状況を理解し、利用者の立場を考えられる専門職としての姿勢を身につける ②自立支援、リハビリテーション、介護予防において必要とされる基礎的知識・技術を習得する ③ I C Fを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立支援の意義や方法を理解できる				
準備学習				
事前学習：次回範囲の教科書を読んでおく。確認テストは事前に内容を予告され、当該授業の冒頭におこなう。 事後学習：確認テストは定期試験の予習になる。提示された課題に取り組むことで学習が深まる。質問は随時受け付けるため、積極的に聞きにくること。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	最新 第2版 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ 中央法規出版 授業項目に合わせ、解説資料をデータを配布する。 演習・グループワーク等で使用する資料は、プリントを配布する。			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	第4章：自立に向けた介護	オリエンテーション 1年後期の全体像
2	自立に向けた介護福祉1	介護福祉における自立支援1
3	自立に向けた介護福祉2	介護福祉における自立支援2
4	自立に向けた介護福祉3	I C Fの考え方1
5	自立に向けた介護福祉4	I C Fの考え方2
6	自立に向けた介護福祉5	自立支援とリハビリテーション1
7	自立に向けた介護福祉6	自立支援とリハビリテーション2
8	自立に向けた介護福祉7	自立支援とリハビリテーション3
9	自立に向けた介護福祉8	自立支援と介護予防1
10	自立に向けた介護福祉9	自立支援と介護予防2
11	自立に向けた介護福祉10	自立支援と介護予防3
12	自立と介護福祉1	【事例演習を通して自立と予防を考える1】
13	自立と介護福祉2	【事例演習を通して自立と予防を考える2】
14	自立と介護福祉3	自立支援とは何か 総合まとめ
15	期末試験・解答解説	試験（60分）・解説（30分）
		備考）講義の進捗状況や理解度によって内容を変更することがある。その際は、事前に告知又は掲示をおこなう。

令和7年度 シラバス				
科目名	介護の基本Ⅱ②			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期	2	講義
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
介護福祉を取り巻く状況の理解と、福祉・介護の専門職としての能力と態度を養うことの意味を理論と実践の両面から学ぶ 介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、フォーマル・インフォーマルな支援とその提供の場を知り、地域を基盤とした生活の継続性を支える地域連携の仕組みを、講義・演習を通して理解する				
到達目標				
介護福祉の理念を踏まえ、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。 ・介護を必要とする人の生活や生活歴、その人らしい暮らしとは何か理解する ・専門職としての基本的な視点や姿勢を学び介護サービスの役割を理解できる ・生活の個別性に対応するために生活の多様性や社会との関わりを理解する				
準備学習				
事前学習：次回の授業範囲の教科書ページを読み、内容の把握をしておく。 事後学習：講義内容を振り返り、復習をおこなう。当該授業で実施した確認テストも活用できる その他：確認テストの復習は、国家試験や定期試験の予習として活用していく。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	最新 第2版 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版 授業項目に合わせレジュメ・資料をUMUにて配布し使用する場合もある。			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	介護福祉を必要とする人の理解 1	私たちの生活の理解 オリエンテーション
2	介護福祉を必要とする人の理解 2	生活にとっての必要な要素とその特性とは
3	介護福祉を必要とする人の理解 3	事例から考える高齢者の暮らし：確認テスト実施
4	介護福祉を必要とする人の理解 4	事例から考える障害者の暮らし
5	介護福祉を必要とする人の理解 5	その人らしさと生活ニーズ
6	介護福祉を必要とする人の理解 6	生活のしづらさを解消する視点とは：確認テスト実施
7	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 1	高齢者のフォーマルサービス
8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 2	障害者のフォーマルサービス
9	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 3	インフォーマルサービスとは：確認テスト実施
10	課外活動・グループワーク 1	【フィールドワークで知るチームケアの視点】～町田の社会資源を知る～
11	課外活動・グループワーク 2	【フィールドワークで知るチームケアの視点】～町田の社会資源を知る～
12	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 4	地域連携（前編）
13	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 5	地域連携（後編）：確認テスト実施
14	介護を必要とする人の生活を支援すること	総まとめ・試験対策
15	期末試験・解答解説	期末試験（60分）・解答解説（30分）
		備考：講義の進捗状況や理解度によって内容を変更することがある。その際は、事前に告知又は掲示をおこなう。



令和7年度 シラバス				
科目名	介護の基本Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期,後期	2	講義
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
前期：リスクマネジメントの必要性や、安全の確保のための基礎的な知識、事故発生時の対応、感染症対策を理解し、介護福祉士の役割について学ぶ				
後期：地域連携の必要性や、多職種協働のための保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割を理解する。介護職種としての自身の健康管理や労働環境について理解を深める				
到達目標				
介護福祉士としての職務責任の基本を学び、多職種や地域との連携に対する実践的な対応や、行動様式を身につける。 ・安全の確保やリスクマネジメント、感染症対策を学ぶ ・介護福祉士に必要な倫理や専門性を考える力を養う ・介護従事者が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境について理解する				
準備学習				
事前学習：次回の授業範囲の教科書ページを読んでおく。確認テストは不定期に実施され、事前に告知される。 事後学習：講義内容、練習問題、確認テストの振り返りは、期末試験の予習にもつながる。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	最新 第2版 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 中央法規出版 授業項目に合わせレジュメ・資料をUMUにて配布し使用する場合もある。			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	第3章：介護における安全の確保とリスクマネジメント	オリエンテーション 前期の全体像（リスクマネジメント、感染対策他）
2	介護における安全の確保	安全を確保する介護福祉士の責務とは
3	リスクマネジメントとは何か 1	福祉サービスに求められる安全や安心、事故防止の対策について
4	リスクマネジメントとは何か 2	身体拘束、虐待防止について振り返りと学習ができる
5	リスクマネジメントとは何か 3	ハインリッヒの法則、ヒヤリハット・事故報告書について知る
6	リスクマネジメントとは何か 4	利用者の生活の場を守る必要性和その方法がわかる
7	リスクマネジメントとは何か 5	事故や危険を察知し、「気づく力」「観察力」をつけることができる
8	リスクマネジメントとは何か 6	生活の場の安全：誤薬、詐欺、災害時の介護福祉職の行動と態度とは
9	感染症対策 1	介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識について知る
10	感染症対策 2	感染症が発生した場合の専門職の行動を理解する
11	感染症対策 3	多職種との連携、個別の感染症対策を知る
12	感染症対策 4	感染症（新しいものを含む）のあらゆる知識が身につく
13	感染症対策 5	介護福祉士にとって必要な姿勢と行動を理解できる。
14	感染症対策 6：前期の総まとめ	感染症のまとめ、前期の総まとめができる：試験対策
15	前期末試験・解説	期末試験（60分）・解答解説（30分）
16	多職種連携・協働の必要性 1	オリエンテーション 後期の全体像（多職種協働・介護従事者の安全）
17	多職種連携・協働の必要性 2	多職種協働の目的と効果、多職種協働の必要性について
18	多職種連携・協働に求められる能力 1	チーム連携に必要なこと：目標の共有
19	多職種連携・協働に求められる能力 2	他職種と良好な関係を築くために必要なスキルを考える
20	保健・医療・福祉職の役割と機能 1	介護福祉職と協働するさまざまな職種について学ぶ

# 令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	佐藤真基子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
「コミュニケーション技術Ⅰ」では、コミュニケーションの意義や援助関係の構築、傾聴、受容、言語・非言語コミュニケーションなど、介護を実践する際の基本となるコミュニケーションについての考え方や技術を学びます。				
到達目標				
①コミュニケーション態度に関する基本技術が理解できる ②言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本が理解できる ③目的別のコミュニケーション技術が理解できる ④集団におけるコミュニケーション技術が理解できる				
準備学習				
事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。 事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	・コミュニケーション技術（中央法規） ・配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	介護におけるコミュニケーションの基本①	授業概要の説明/介護におけるコミュニケーションとは
2	介護におけるコミュニケーションの基本②	介護におけるコミュニケーションの対象
3	介護におけるコミュニケーションの基本③	援助関係とコミュニケーション① 援助関係の特徴
4	介護におけるコミュニケーションの基本④	援助関係とコミュニケーション② 援助関係を構築するための原則
5	コミュニケーションの基本技術①	コミュニケーション態度に関する基本技術① 傾聴
6	コミュニケーションの基本技術②	コミュニケーション態度に関する基本技術② 受容と共感
7	コミュニケーションの基本技術③	コミュニケーション態度に関する基本技術③ コミュニケーションにおける距離
8	コミュニケーションの基本技術④	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
9	コミュニケーションの基本技術⑤	目的別のコミュニケーション技術① 動機づけ
10	コミュニケーションの基本技術⑥	目的別のコミュニケーション技術② ものの見方に変化を生み出す技術
11	コミュニケーションの基本技術⑦	目的別のコミュニケーション技術③ 意思決定を支援するためのコミュニケーション
12	コミュニケーションの基本技術⑧	集団におけるコミュニケーション技術
13	コミュニケーションの基本技術 9	集団におけるコミュニケーション技術
14	対象者の特性に応じたコミュニケーション	コミュニケーション障害への対応の基本
15	まとめ	筆記試験

令和7年度 シラバス				
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	佐藤真基子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
「コミュニケーション技術Ⅱ」では、さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援方法や、家族とのコミュニケーション、チーム力を高めるコミュニケーション方法等を学びます。				
到達目標				
①さまざまな障害がもたらす、コミュニケーション障害を理解する ②障害のある人を支援するコミュニケーション技術を理解する ③家族と協働していく支援パートナーであることを理解する ④介護福祉職チーム、多職種協働チームにおけるコミュニケーションの意義と目的を理解する				
準備学習				
事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。 事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	・コミュニケーション技術（中央法規） ・配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	対象者の特性に応じたコミュニケーション①	視覚障害のある人への支援
2	対象者の特性に応じたコミュニケーション②	聴覚障害のある人への支援
3	対象者の特性に応じたコミュニケーション③	構音障害のある人への支援
4	対象者の特性に応じたコミュニケーション④	失語症の人への支援
5	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤	認知症の人への支援
6	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑥	うつ病・抑うつ状態の人への支援
7	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑦	統合失調症の人への支援
8	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑧	知的障害のある人への支援
9	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑨	発達障害のある人への支援
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑩	高次脳機能障害・重症心身障害のある人への支援
11	家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり/家族への助言・指導・調整/家族関係と介護ストレスへの対応
12	介護におけるチームのコミュニケーション①	チームのコミュニケーションとは
13	介護におけるチームのコミュニケーション②	報告・連絡・相談の技術/会議・議事進行・説明の技術
14	介護におけるチームのコミュニケーション③	情報の活用と管理のための技術
15	まとめ	筆記試験

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <介護福祉学科>

科目名	生活支援技術Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期,後期	2	講義
担当教員	黒葛原廣子、松橋由紀美			
実務経験	実務経験	黒葛原：管理栄養士としての実務経験を有する 松橋：高校教諭としての実務経験を有する		

授業概要
（前期）栄養素が体の中でどのように代謝吸収されているかを理解して、調理実習では調理の基本を学び、おいしく安全な食事の必要性を知る。 （後期）利用者の尊厳保持とその人らしい生活を踏まえ、身体機能の低下などに対処し、生活支援の場において利用者の生きがいとなる豊かな生活や、快適な住生活の提唱及び問題点に対する適切な対応・サポートができる生活支援能力の習得をめざす。
到達目標
（前期）①栄養素の働きを知り、適切な栄養管理ができるようになる。②調理技術を身に着け、簡単な調理ができるようになる。③介護する対象者に不足している栄養素が何かについて理解ができる。 （後期）利用者の尊厳保持とその人らしい生活を踏まえ、身体機能の低下などに対処し、生活支援の場において利用者の生きがいとなる豊かな生活や、快適な住生活の提唱及び問題点に対する適切な対応・サポートができる生活支援能力の習得をめざす。
準備学習
（前期）・生活支援技術Ⅰ 第5章 自立に向けた家事の介護・こころとからだのしくみ 第5章 食事に関連したこころとからだのしくみ よく読んで疑問点をまとめておく （後期）各授業の前に教科書を読み、概要を把握しておく。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法 （前期）実技「調理実習報告書」「講義報告書」内容と提出、小テスト30% 筆記試験 70% （後期） 期末試験 90% 小テスト 10%

使用テキスト	（前期）生活支援Ⅰ、こころとからだのしくみ （後期）最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 編集：介護福祉養成講座編集委員会 中央法規出版
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	調理実習について	授業内容の説明・調理と実習・食中毒について
2	栄養学基礎知識	栄養について基礎知識・五大栄養素・エネルギー産生栄養素・ビタミン・ミネラル・食事バランスガイド
3	調理実習	野菜の切り方・計量スプーン、計量カップの使い方・調理実習デモンストレーション
4	調理実習	煮りんごの春巻き揚げ
5	調理実習	咀嚼困難な人への献立配慮について・粉の種類について・美味しいお茶の入れ方・実習用調理のデモンストレーション
6	調理実習	柔らか白玉のしるこ
7	調理実習	栄養素に配慮した調理、献立の立て方・実習用調理のデモンストレーション
8	調理実習	クリームチーズケーキ・美味しい出し汁の取り方
9	栄養学の基礎知識・復習と重要ポイント	エネルギー代謝（炭水化物、たんぱく質脂質の役割）・消化吸収の過程
10	栄養学の基礎知識・復習と重要ポイント	ビタミン・ミネラルの役割と食物繊維の働き・バランスの良い食事献立の立て方
11	病態別食事の重要ポイント	癌・耐糖質異常症・脂質異常症・高血圧・心疾患・痛風・腎臓病・肝疾患
12	病態別食事の重要ポイント	骨粗鬆症・食物アレルギー・肺疾患・便秘症・脳梗塞・肥満症
13	高齢者の食事の重要ポイント	高齢者の食事ポイント・口腔機能と消化器官の変化・フレイルの加速
14	まとめ	食事バランスガイドの自己評価記録・摂食嚥下の5期モデルテスト・調理実習報告書の返却と復習
15	期末試験	
16	ガイダンス	授業のねらいと進め方・衣生活住生活について
17	居住環境の整備 第1節	住まいの役割と機能
18	居住環境の整備 第2節	住生活行為と生活空間の関係
19	居住環境の整備 第3節	快適な室内環境のあり方
20	居住環境の整備 第4節	安全に暮らすための生活環境

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

[illegible][illegible]

## 令和7年度 シラバス

科目名	生活支援技術Ⅱ①			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	半田仁・飯嶋隆・谷内美和子・小菅真理子・川村仁美			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			

授業概要
尊厳の保持や自立の支援の視点を基に利用者主体の希望に沿った生活の継続ができるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識と技術を習得する学習とする。
到達目標
ICFの視点を生活支援に活用する意義を理解する。根拠に基づいた介護実践を行うための生活支援技術の基本を習得する。
準備学習
実技演習は「介護実習室の使用許可願書」を教員に提出して実習室で実施できる
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験（70%）実技試験（30%）の総合評価

使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社
--------	--

## アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

授業計画		
回数	単元	内容
1	応急手当の知識と技術①	[講義] 事故と予防の視点、応急手当の実際① 6-P.266-277
2	自立に向けた排泄の介護①	[講義] 自立した排泄 7-P.162-165
3	自立に向けた排泄の介護②	[講義] 排泄の介護、多職種との連携 7-P.166-218
4	自立に向けた排泄の介護③	[演習] 排泄の介助（尿器、差しこみ便器）
5	自立に向けた排泄の介護④	[演習] 排泄の介助（陰部洗浄）
6	自立に向けた排泄の介護⑤	[演習] 排泄の介助（おむつ）①
7	自立に向けた排泄の介護⑥	[演習] 排泄の介助（おむつ）②
8	自立に向けた排泄の介護⑦	[演習] 排泄の介助（おむつ）③
9	自立に向けた排泄の介護⑧	[演習] 排泄の介助（ポータブルトイレ）①
10	自立に向けた排泄の介護⑨	[演習] 排泄の介助（ポータブルトイレ）②
11	人生の最終段階における介護①	[講義] 人生の最終段階の意義と介護の役割、多職種との連携 7-P.256-291
12	実技試験	[試験] 定期実技試験④（排泄）、解説
13	実技試験	[試験] 定期実技試験④（排泄）、解説
14	災害時における生活支援①	[講義] 災害時における介護福祉職の役割 6-P.280-285
15	災害時における生活支援②	[講義] 災害時における生活支援の実際 6-P.286-306
16	自立に向けた食事の介護①	[講義] 自立した食事 7-P.74-78
17	自立に向けた食事の介護②	[講義] 食事の介護、多職種との連携 7-P.79-106
18	自立に向けた食事の介護③	[演習] 利用者の状態に応じた食事の介助
19	自立に向けた食事の介護④	[演習] 誤嚥の予防のための支援
20	応急手当の知識と技術②	[演習] 応急手当の実際②（窒息）

## 令和7年度 シラバス

## アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

科目名		生活支援技術Ⅱ ①
21	福祉用具の意義④	[演習] 自助具
22	自立に向けた移動の介護⑦	[演習] 歩行の介助②
23	実技試験	[試験] 定期実技試験⑤（杖歩行）、解説
24	実技試験	[試験] 定期実技試験⑤（杖歩行）、解説
25	総合演習①	[講義] 事例検討①
26	総合演習②	[講義] 事例検討②
27	総合演習③	[講義] 事例検討③
28	総合演習④	[講義] 事例検討④
29	福祉用具の意義⑤	[演習] 介護ロボット体験③
30	総合演習⑤	[演習] 事例検討⑤
31	総合演習⑥	[演習] 事例検討⑥
32	総合演習⑦	[講義] 事例検討⑦
33	人生の最終段階における介護②	[演習] 死をむかえる人の介護
34	福祉用具の意義⑥	[演習] 介護ロボット体験④
35	総合演習⑧	[演習] 事例検討⑧
36	総合演習⑨	[講義] 事例検討⑨
37	まとめ	[講義] 後期 第1回～第36回
38	期末試験	[試験] 定期実技試験⑥（総合）、解説
39	期末試験	[試験] 定期実技試験⑥（総合）、解説
40	期末試験	[試験] 定期試験（後期全授業に関する筆記試験）、解説

[illegible]



## 令和7年度 シラバス

科目名	生活支援技術Ⅱ①			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	半田仁・飯嶋隆・谷内美和子・小菅真理子・川村仁美			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			

授業概要
生活支援とは何かを理解して生活支援と介護過程の関連およびICFの視点を持ち、自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持排泄等の基本的な知識・技術を身に付ける。
到達目標
自立に向けた支援を実施するための生活支援技術の基本を習得する。
準備学習
実技演習は「介護実習室の使用許可願書」を教員に提出して実習室で実施できる
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 1・2年の定期試験70%と1・2年の実技試験（30%）の総合評価を評点とし、評価とする。

使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版 [編集] 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版株式会社
--------	--

## アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	[講義] 生活支援の理解 6-P.2-36
2	生活支援の理解	[講義] 休息・睡眠の介護 7-P.220-228
3	休息・睡眠の介護①	[講義] 休息・睡眠の介護 7-P.229-253、ボディメカニクス 6-P.91-92
4	休息・睡眠の介護②	[演習] ボディメカニクス
5	休息・睡眠の介護③	[演習] ベッドメイキング①
6	休息・睡眠の介護④	[演習] ベッドメイキング②
7	休息・睡眠の介護⑤	[演習] ベッドメイキング③
8	休息・睡眠の介護⑥	[演習] ベッドメイキング④
9	福祉用具の意義①	[講義] 福祉用具の重要性・種類 6-P.196-218
10	実技試験	[試験] 定期実技試験①（ベッドメイキング）、解説
11	実技試験	[試験] 定期実技試験①（ベッドメイキング）、解説
12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	[講義] 自立した入浴・清潔保持 7-P.108-121
13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	[講義] 入浴・清潔保持の介護 7-P.122-150
14	自立に向けた移動の介護①	[講義] 自立した移動 6-P.84-88
15	自立に向けた移動の介護②	[講義] 移動・移乗 6-P.89-194
16	福祉用具の意義②	[演習] 介護ロボット体験①
17	自立に向けた移動の介護③	[演習] 移動・移乗の基本的理解、起居動作、安楽な姿勢・立位保持
18	自立に向けた移動の介護④	[演習] 歩行の介助①、車いす（移動・移乗）の介助
19	自立に向けた移動の介護⑤	[演習] 移動・移乗のための道具・用具
20	自立に向けた移動の介護⑥	[講義] 移動の介護における多職種との連携 6-P.189-194

## 令和7年度 シラバス

## アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

科目名		生活支援技術Ⅱ ①
21	実技試験	[試験] 定期実技試験②（車いす）、解説
22	実技試験	[試験] 定期実技試験②（車いす）、解説
23	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ③	[講義] 入浴・清潔保持の介護における多職種との連携 7-P.151-160
24	自立に向けた身じたくの介護①	[講義] 自立した身じたく 7-P.2-5
25	自立に向けた身じたくの介護②	[講義] 身じたくの介護 7-P.6-66
26	自立に向けた身じたくの介護③	[講義] 身じたくの介護における多職種との連携 7-P.67-72
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ④	[演習] 入浴・清潔保持の介助
28	自立に向けた身じたくの介護④	[演習] 身じたくの介助（整容）
29	自立に向けた身じたくの介護⑤	[演習] 身じたくの介助（更衣）①
30	福祉用具の意義③	[演習] 介護ロボット体験②
31	自立に向けた身じたくの介護⑥	[演習] 身じたくの介助（更衣）②
32	自立に向けた身じたくの介護⑦	[演習] 身じたくの介助（更衣）③
33	自立に向けた身じたくの介護⑧	[演習] 身じたくの介助（更衣）④
34	自立に向けた家事の介護	[講義] 自立した家事、家事の介護、多職種との連携 7-P.220-264
35	居住環境の整備①	[講義] 住まいの役割と機能、生活空間、室内環境 7-P.38-63
36	居住環境の整備②	[講義] 安全に暮らすための生活環境、多職種との連携 7-P.64-82
37	中間試験	[試験] 定期試験（前期全授業に関する筆記試験）、解説
38	中間試験	[試験] 定期実技試験③（身じたく）、解説
39	中間試験	[試験] 定期実技試験③（身じたく）、解説
40	まとめ	[講義] 前期 第1回～第36回

[illegible]

## 令和7年度 シラバス

科目名	生活支援技術Ⅱ②			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期,後期	5	講義
担当教員	半田仁			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>1、尊厳の保持・自立支援・生活の豊かさの観点から、以下の学習とする。</p> <p>①本人主体の生活を「している活動」ととらえる。</p> <p>②福祉用具を含めた環境の工夫から「できる活動」をふやす。</p> <p>③できないところの援助を考える。</p> <p>2、ICFの視点に基づいた介護過程の展開実践方法を理解する。</p>
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害や疾病がある人について、医学的・心理的側面から理解し、生活支援の意義を考えることができる。</li> <li>・ICFの視点を活かす意味を理解し、根拠に基づいた適切な技術を理解する。</li> <li>・生活支援技術Ⅱで習得した学びを活かし、福祉用具・環境についての知識・技術を理解する。</li> </ul>
準備学習
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で学習した範囲に出てきた新しい専門用語について復習すること</li> <li>・介護福祉士国家試験過去問を解いて出題傾向を把握し、理解度を確認すること</li> </ul>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。</p> <p>1・2年の定期試験70%と1・2年の実技試験（30%）の総合評価を評点とし、評価とする。</p>

使用テキスト	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 介護福祉士養成講座編集委員会/編集 中央法規出版株式会社/発行
--------	--

## アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	[講義] 生活支援技術とリハビリ介護
2	リハビリ介護と福祉用具①	[講義] 自立に向けた食事の介護
3	リハビリ介護と福祉用具②	[講義] 自立に向けた移動の介護
4	リハビリ介護と福祉用具③	[講義] 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
5	リハビリ介護と福祉用具④	[講義] 自立に向けた身じたくの介護①
6	リハビリ介護と福祉用具⑤	[講義] 自立に向けた身じたくの介護②
7	リハビリ介護と福祉用具⑥	[講義] 自立に向けた排泄の介護
8	リハビリ介護と福祉用具⑦	[講義] レクリエーションの視点を含めた介護
9	まとめ	[講義] 前期 第1回～第8回
10	中間試験	[試験] 定期試験（全授業に関する筆記試験）、解説
11	卒業実技試験①	[講義] 後期 事例説明①
12	卒業実技試験②	[講義] 事例説明②
13	卒業実技試験③	[講義] 事例説明③
14	卒業実技試験④	[演習] 後期 事例①
15	卒業実技試験⑤	[演習] 後期 事例②
16	卒業実技試験⑥	[演習] 後期 事例③
17	卒業実技試験⑦	[講義] 事例①
18	卒業実技試験⑧	[講義] 事例②
19	期末試験	[試験] 定期試験（卒業実技試験）、解説
20	期末試験	[試験] 定期試験（卒業実技試験）、解説

令和7年度 シラバス				
科目名	生活支援技術Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	後期	2	講義
担当教員	佐藤真基子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
「生活支援技術Ⅲ」は、「こころとからだのしくみ」の科目で学ぶ内容を根拠として、障害や疾病によって、どのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して、介護福祉士としてどのようなかわりができるのかを学びます。				
到達目標				
①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する ②生活上の困りごとを理解する ③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する				
準備学習				
事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。 事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	・生活支援技術Ⅲ（中央法規） ・配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	障害に応じた生活支援技術Ⅰ①	授業概要説明/肢体不自由に応じた介護
2	障害に応じた生活支援技術Ⅰ②	視覚障害に応じた介護
3	障害に応じた生活支援技術Ⅰ③	聴覚・言語障害に応じた介護
4	障害に応じた生活支援技術Ⅰ④	【内部障害】心臓機能障害に応じた介護
5	障害に応じた生活支援技術Ⅰ⑤	【内部障害】呼吸機能障害に応じた介護
6	障害に応じた生活支援技術Ⅰ⑥	【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護
7	障害に応じた生活支援技術Ⅰ⑦	【内部障害】膀胱・直腸機能障害に応じた介護
8	障害に応じた生活支援技術Ⅰ⑧	【内部障害】小腸機能障害に応じた介護
9	障害に応じた生活支援技術Ⅰ⑨	【内部障害】HⅠVによる免疫機能障害に応じた介護
10	障害に応じた生活支援技術Ⅰ⑩	【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護
11	障害に応じた生活支援技術Ⅰ⑪	重症心身障害に応じた介護
12	障害に応じた生活支援技術Ⅱ①	知的障害に応じた介護
13	障害に応じた生活支援技術Ⅱ②	精神障害に応じた介護
14	障害に応じた生活支援技術Ⅱ③	高次脳機能障害に応じた介護
15	障害に応じた生活支援技術Ⅱ④	発達障害に応じた介護
16	障害に応じた生活支援技術Ⅱ⑤	【難病】筋萎縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護
17	障害に応じた生活支援技術Ⅱ⑥	【難病】パーキンソン病に応じた介護
18	障害に応じた生活支援技術Ⅱ⑦	【難病】悪性関節リウマチに応じた介護
19	障害に応じた生活支援技術Ⅱ⑧	【難病】筋ジストロフィーに応じた介護
20	まとめ	筆記試験

## 令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	介護過程Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
介護福祉士の中核である介護過程の展開に関する基本的なスキルを身につける 本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析をおこない、根拠に基づく実践を伴う課題解決の思考過程を養う ・専門知識・技術を根拠とした、科学的な思考過程を理解する ・介護過程の一連のプロセスについての基本的な知識を体系的に理解する				
到達目標				
①介護過程の意義や方法、構成要素、目的を理解できる。 ②チームアプローチの必要性やチームにおける介護福祉士の役割を理解できる。 ③アセスメントを学習する中で、I C Fシートの活用方法を理解し記述していくことができる。 ④事例を通して、必要な情報や生活上の課題を見つけ出し記述することができる。				
準備学習				
事前学習：次回の授業範囲の教科書ページを読んでおく。小テストの実施は、当該授業の冒頭におこなわれる。 事後学習：講義内容を振り返り、復習をおこなう。小テストや練習問題の振り返りは学期末試験の予習にもつながるため、積極的に取り組むこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	①最新 第2版 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版 ②授業項目に合わせ、解説資料等をデータ配布する。 ③演習・グループワーク等で使用する資料は、プリントを配布する。			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	介護過程とは 意義・目的・全体像
2	介護過程の展開の基本的視点1	介護過程とI C F（国際機能生活分類）
3	介護過程の展開の基本的視点2	介護過程の全体像 事例検討・研究の必要性
4	介護過程の理解1	介護過程の展開 目的・方法・視点・求められる思考の方法とは
5	介護過程の理解2	アセスメントの意義・方法 情報収集とは
6	介護過程の理解3	情報の解釈・関連づけ・統合化
7	介護過程の理解4	課題の明確化 アセスメントの視点・実際
8	介護過程の理解5	計画の立案 介護計画とは 目標の設定・優先順位
9	介護過程の理解6	計画の立案 支援内容・支援方法の決定 介護計画立案
10	介護過程の理解7	実施について 留意点 記録の種類と必要性
11	介護過程の理解8	評価について 意義と目的 方法 留意点
12	介護過程とチームアプローチ1	介護過程とケアマネジメントの関係性
13	介護過程とチームアプローチ2	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
14	介護過程Ⅰの総合まとめ	展開の意義や考え方・方法について 試験対策
15	期末試験・解説	試験（60分）・解説（30分）
		備考1）講義の進捗状況や学生の理解度によって内容を多少変更することがある。その際は、事前に告知又は掲示をおこなう。
		備考2）小テストは授業の理解度の確認のために実施する。第2回から第13回まで授業毎におこなわれる。

令和7年度 シラバス				
科目名	介護過程Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
介護過程の展開を実践的に学ぶ。個別のニーズを的確に把握していく方法を身に付ける 本人の望む生活の実現に向けた科学的思考過程が必要であることを理解し、尊厳や自立支援における基本的な思考を深める 事例演習を通して、実践的展開を理解し、他科目で学ぶ専門的知識と技術を統合しながら考えていく力を身に付ける				
到達目標				
利用者の状況をアセスメントしていく力、介護計画を立案する力を身につける。また、その計画に基づく支援の実施と評価をおこなう一連のプロセスを理解し、介護過程を展開する力を養う ・介護過程Ⅰの学びを活かし、事例を通して介護過程の展開ができる ・事例演習を通して専門職における多職種連携の意義を理解できる				
準備学習				
事前学習：次回のUMUデータを読んでおく。小テストは当該授業の理解のために実施する。テストは指定された該当回から出題し、授業の冒頭におこなわれる。 事後学習：授業に合わせ提示される課題に取り組む。授業内容に関する質問は随時受け付ける。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	①最新 第2版 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版 ②授業項目に合わせレジュメ・資料をデータ等で配布し使用する。 ③演習・グループワーク等で使用する資料は、プリントを配布する。			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	介護過程についての基礎的理解 1	オリエンテーション 介護過程のプロセスの理解、前期授業の振り返り
2	介護過程についての基礎的理解 2	前期におこなってきた介護過程のプロセスを振り返る
3	介護過程についての基礎的理解 3	基礎的理解の総合まとめ
4	介護過程の実践的展開 1	さまざまな情報収集方法を学ぶ
5	介護過程の実践的展開 2	事例に基づく情報収集の実施
6	介護過程の実践的展開 3	情報共有の重要性を学ぶ
7	アセスメントツールの活用 1	各項目の意義を学ぶ
8	アセスメントツールの活用 2	ツールとケアの関係性を知る
9	アセスメントツールの活用 3	I C Fシートの活用の意義
10	介護過程における課題分析 1	課題分析法
11	介護過程における課題分析 2	課題明確化
12	介護過程における課題分析 3	目標の設定
13	個別援助計画 1	介護計画立案のための視点とは
14	個別援助計画 2	介護計画立案の実際と留意点
15	個別援助計画 3	実施・評価とは
16	介護過程の実践的展開 1	【事例演習】：実践的理解 情報収集
17	介護過程の実践的展開 2	【事例演習】：情報の分析・目標の設定・介護計画の立案
18	介護過程の実践的展開 3	【事例演習】：再アセスメント・計画の立案の修正など
19	介護過程の実践的展開 4	事例演習の提出、介護過程Ⅱの総まとめと振り返り 試験対策
20	後期末試験・解説	試験（60分）・解説（30分）

令和7年度 シラバス				
科目名	介護過程Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期	1	講義
担当教員	谷内美和子			
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。			
授業概要				
1、アセスメントから評価まで一連の介護過程における思考過程の演習を繰り返す。 2、2段階実習での介護過程の取り組みを踏まえ、事例から自分たちの考えをまとめる。 3、事例を一つ一つ丁寧に様々な角度から分析し、利用者の望む生活の実現に向けてあらゆる可能性を追求する姿勢を確認する。				
到達目標				
1、目の前の利用者に適切な支援を提供できる力を養う。 2、I C F の考え方を理解し、介護過程の実践に活かす事が出来る。 3、様々な事例から個別援助のあり方を考える。 4、2段階実習で情報収集、アセスメント、計画立案までが実践できる。				
準備学習				
特になし				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 提出物と小テストで30%・期末試験で70%				
使用テキスト	中央法規「介護過程」			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	介護過程の実践的展開	オリエンテーション 実習との関連性について
2	介護過程の実践的展開	アセスメントの実際
3	介護過程の実践的展開	情報収集・ICFシート確認
4	介護過程の実践的展開	情報収集・ICFシート確認
5	介護過程の実践的展開	事例1 自宅で夫との生活を継続しているAさん
6	介護過程の実践的展開	ICFシート提出
7	介護過程の実践的展開	事例2 夫との在宅生活を望むJさんの生活支援
8	介護過程の実践的展開	課題分析提出
9	介護過程の実践的展開	事例3 役割をもって家族と生活するIさん
10	介護過程の実践的展開	課題分析・個別援助計画課題提出
11	介護過程の実践的展開	事例4 介護老人福祉施設で生活するLさん
12	介護過程の実践的展開	ICFシート・課題分析提出
13	介護過程の実践的展開	個別援助計画作成
14	介護過程の実践的展開	個別援助計画課題提出
15	介護過程の実践的展開	課題・立案発表
16	介護過程の実践的展開	課題・立案発表
17	介護過程の実践的展開	実施
18	介護過程の実践的展開	評価
19	ケアマネージメント	全体像・介護福祉士の役割
20	期末試験	試験60分・解答解説30分



令和7年度 シラバス				
科目名	介護過程Ⅳ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	後期	1	講義
担当教員	小林桂子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
前半は、介護過程を通して「尊厳を守るケアの実践」「個別ケアの実践」「自立支援」「多職種協働・連携による適切な支援の提供」「根拠に基づく介護の実践」の実現ができるよう総まとめを行い、後半は、自律的に介護過程を展開することを通して「自分がどのような介護福祉士になりたいのか」を考える機会とする。				
到達目標				
①介護実践の根拠を「考える」ことができる。 ②一人ひとりの利用者に適した介護を「考える」ことができる。 ③チームアプローチにおける介護福祉士の役割を理解する。 ④専門職として自律的に介護過程の展開ができる。				
準備学習				
事前学習：テキストに目を通してくること（該当ページは授業内にて指示） 事後学習：授業の理解度をはかるため、必要に応じて小テストを実施（事前に授業内にて指示）				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。				
使用テキスト	最新・介護福祉士養成講座第9巻「介護過程」第2版 中央法規 ワークシート（授業時配布）			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス/自己覚知	科目概要の説明/介護過程Ⅳに入る前に自己覚知を促進する
2	インテークについて	介護過程における「インテーク」の意味を考える
3	情報収集について	コミュニケーションや観察を通じての情報収集を考える
4	アセスメントについて	「アセスメント」情報を解釈・関連づけ・統合化し、生活課題を明らかにする
5	「考える介護」とは	考える介護（介護過程）とは何かを考える
6	「考える介護」の必要性	なぜ「考える介護」が必要なのかを考える
7	多職種連携	ケアマネジメント過程と介護過程の関連から、多職種連携を考える
8	チームにおける介護福祉士の役割と介護過程	チームにおける介護福祉士の役割と介護過程を考える
9	リスクマネジメントと介護過程	リスクマネジメントと介護過程について考える
10	倫理的ジレンについて	介護過程における「倫理的ジレンマ」の意味について考える
11	尊厳を守る介護と介護過程	「尊厳を守る介護」をどのように提供するかを考える
12	権利擁護と介護過程	「権利擁護」を意識した介護過程を考える
13	自律的に介護過程を展開するとは①	介護過程を他者に伝えるために必要な視点を考える
14	自律的に介護過程を展開するとは②	介護過程を他者に伝えるために必要な視点を考える
15	自律的に介護過程を展開するとは③	介護過程を自分の言葉で他者に伝えることを体験する（発表）
16	自律的に介護過程を展開するとは④	介護過程を自分の言葉で他者に伝えることを体験する（発表）
17	事例検討①	動画から介護過程を展開する（情報収集）
18	事例検討②	動画から介護過程を展開する（アセスメント～具体的な援助内容）
19	介護研究	介護研究の目的や流れ等を学び、研究テーマを考える
20	まとめ	定期試験（全授業に関する試験）、解説

令和7年度 シラバス				
科目名	介護総合演習Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
介護実習の一連の流れを学び、実習施設の概要・種類・業務・連携を理解する 利用者の生活像や介護職の役割を知り、介護実習においての自身の目標や課題が明確にできる 実習先で必要な知識・技術やマナー、根拠を踏まえた実習記録の記述力を身に付ける 事例演習を通して他者との関わりを振り返り、利用者理解につなげる				
到達目標				
介護実習の意義や必要性を学び、利用者を支援するうえで必要な知識・技術・情意を深める ①実習施設の概要とそこで生活する利用者像について理解できる ②介護福祉士としての基本的なコミュニケーション技法、観察技法、記録の記述ができる ③実習のねらいや内容を理解し、自己目標や学習課題を明確にすることができる				
準備学習				
事前学習：次回の範囲の教科書に目を通す。小テストは事前告知された内容を予習しておくこと。 事後学習：講義内容の復習をおこなう。授業内演習として、本番を想定した記述ワークを実施するため、必ず取り組み、もれなく提出すること。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	①最新 第2版 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 中央法規出版 ②授業項目に合わせ、解説データや資料を配布する。 ③演習・グループワーク等で使用する場合は、プリントを配布する。			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	初回オリエンテーション	介護総合演習とは何か 学びの内容と位置づけ
2	介護実習の理解 1	介護総合演習の意義と目的 学びの統合化とは
3	介護実習の理解 2	介護実習の種類、実習内容の理解と視点
4	実習施設の理解 1	実習先の特徴、実習先での学び 実習施設の全体像
5	実習施設の理解 2	訪問・通所・通所リハ・特養・老健について
6	実習施設の理解 3	養護老人ホーム・グループホーム・小規模多機能施設 他
7	介護実習準備について 1	実習前の準備、実習目標の立て方 必要な記録類
8	介護実習準備について 2	実習中の学び 態度・行動目標・観察と考察他
9	介護実習準備について 3	実習後の学び 実習体験の総まとめ 記録類の整理
10	実習記録について 1	根拠を踏まえた実習記録書の記入方法 1
11	実習記録について 2	根拠を踏まえた実習記録書の記入方法 2
12	実習記録について 3	根拠を踏まえた実習記録書の記入方法 3
13	実習記録について 4	実習記録書の記入の実際、プロセスレコードとは何か
14	実習目標の理解	総まとめ 実習目標の意義 振り返り 試験対策
15	期末試験・解答解説	試験（60分）・解説（30分）
		備考：講義の進捗状況や理解度によって内容を変更することがある。その際は、事前に告知又は掲示をおこなう。

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <介護福祉学科>

科目名	介護総合演習Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			

授業概要
実習現場の概要を理解し、生活支援技術の実践やコミュニケーション技術の活用を通して、個々の利用者と関わることで、個別ケアの必要性を理解する。この実習を通して人間関係の形成過程を体験的に学んでいく。 (1回～7回：第1段階実習前指導) (8回～11回：実習中指導・帰校日) (12回～15回：実習後指導)
到達目標
①介護実践に必要な知識や技術の統合をおこない、介護観を形成し専門職としての姿勢を養う ②様々な生活支援の場面に必要な基礎的な知識・技術を習得する ③対象者の生活を理解しコミュニケーションや生活支援をおこなう能力・技術を習得する ④各種サービスを利用しながらその人らしさを維持し生活する状況について学ぶ
準備学習
事前学習：課題や提出物を準備する。配布資料・ファイルの内容物はすべて重要な書類である。紛失・破損しないよう慎重に取り扱う。 事後学習：記述物や準備物品に取り組む。決められた期日までに巡回担当教員に提出し指導を受ける必要がある。
成績評価
※本科目は実習のための準備となるため、定期試験はない。よって以下の内容で評価する。 ①介護実習評価・・・評価全体の70% ②記録物・授業態度・出欠状況・実習報告会などの総合平常点・・・30%

使用テキスト	①実習の手引き（2年間通年保管となる） ②実習ファイル（各自それぞれが管理し整理する。実習後、整理したファイルは施設に送付し評価される） ③内容に合わせ、レジュメ・資料を配布し使用する。
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	第1段階実習の全体説明	施設実習用学生カード・同意書・誓約書についての説明と記入
2	必要書類の準備・作成	実習の手引き読み合わせ、介護実習ファイルの配布・説明（各書類の取り扱い方法）
3	必要書類の確認・作成	第1段階実習目標の書き方 オリエンテーション・電話のかけ方と時期 学生の心得
4	事前準備が必要な書類等の確認	日々の目標、巡回時の確認事項、オリエンテーション内容の確認など
5	各科目との連動、学習の振り返り1	毎日の記録の書き方・プロセスレコードの書き方の確認も含む
6	各科目との連動、学習の振り返り2	利用者理解、施設実習における態度・技術の確認、説明など
7	実習前の総括	介護実習ファイルの確認、各種書類の確認、介護実習を行うにあたっての心構え
8	介護実習帰校日1	個別指導、実習の体験報告・情報交換、関係書類の確認
9	介護実習帰校日1	個別指導、実習の体験報告・情報交換、関係書類の確認
10	介護実習帰校日2	個別指導、実習の体験報告・情報交換、関係書類の確認
11	介護実習帰校日2	個別指導、実習の体験報告・情報交換、関係書類の確認
12	介護実習のまとめ1	介護実習ファイルの整理・確認、実習施設への礼状の作成と送付など
13	介護実習のまとめ2	介護実習ファイルの整理・確認、実習施設への礼状の作成と送付など
14	実習報告会	第1段階実習報告会（評価の対象となる）
15	実習報告会	第1段階実習報告会（評価の対象となる）
		※本科目は実習のための準備となるため、定期試験はない。介護実習施設からの評価や、提出書類・授業態度の結果を総合的に評価する。

令和7年度 シラバス				
科目名	介護総合演習Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期	1	講義
担当教員	川村仁美			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			

授業概要		
介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。		
①実習前：第2段階実習の目的・目標、自身の行動計画を明確化		
②実習中：実習状況の振り返り、実習中の課題取り組みを確認		
③実習後：記録書類を整理し、実習取り組み姿勢の自己評価や自身の課題を明確化		
到達目標		
・介護過程の展開を軸とした介護実習の目的と目標を理解できる		
・各領域で学んだ知識と技術を統合し、主体的な介護過程の展開、生活支援技術の実施ができる		
・実習における自身の状況や役割を把握し、意欲的に臨むことができる		
・実習後、自身の評価や課題を明確にし、専門職としての態度を養うことができる		
準備学習		
【実習前】配属先施設の概要を理解し、実習目標の完成など実習に臨む準備を整える		
【実習中】自己の取り組み課題を理解し、介護過程の展開方法を振り返る		
【実習後】実習ファイルの完成と、報告会での振り返りを行うための準備を行う		
成績評価		
下記により総合的に評価を行う		
・実習前指導、帰校日指導、実習指導の状況      ・第2段階実習施設の評価		
・実習報告会発表内容、提出用紙		

使用テキスト	・介護総合演習【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集 中央法規出版株式会社/発行		
	・介護実習の手引き（「介護総合演習Ⅰ」授業内で配布済）		
	・2025年版介護過程ハンドブック（「介護過程Ⅱ」授業内で配布済）		

授業計画		
回数	単元	内容
1	実習前指導①	第2段階実習の概要説明（配属先発表／提出書類の記入など）
2	実習前指導②	実習に必要な書類配布・確認（実習記録／介護過程展開書類など）
3	実習前指導③	実習に向けた準備① （オリエンテーション／実習スケジュール／実習目標など）
4	実習前指導④	実習に向けた準備② （巡回・帰校日指導の内容／事前提出物の確認など）
5	実習前指導⑤	実習に向けた準備③（実習前の健康管理／介護施設における理解など）
6	実習前指導⑥	実習に向けた準備④ （第1段階実習を振り返り、実習記録や自身の課題・到達目標を確認）
7	実習前指導⑦	実習に向けた準備⑤（実習の手引きを用いた実習概要の確認）
8	帰校日指導①	実習状況と介護過程展開の確認① （利用者選定・アセスメントのすすめ方、実習状況の確認）
9	帰校日指導②	実習状況と介護過程展開の確認② （利用者選定・アセスメントのすすめ方、実習状況の確認）
10	帰校日指導③	実習状況と介護過程展開の確認③ （課題分析表、個別援助計画の立案、実習状況の確認）
11	帰校日指導④	実習状況と介護過程展開の確認④ （課題分析表、個別援助計画の立案、実習状況の確認）
12	実習後指導①	実習後の振り返り① （実習記録の確認・整理、実習ファイルの提出、報告会に向けた準備）
13	実習後指導②	実習後の振り返り② （実習記録の確認・整理、実習ファイルの提出、報告会に向けた準備）
14	報告会	第2段階実習報告会
15	報告会	第2段階実習報告会
		※実習前指導のうち、実習施設指導者による特別講話を予定（1～2回）

令和7年度 シラバス				
科目名	介護総合演習Ⅳ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	後期	1	講義
担当教員	谷内美和子			
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。			
授業概要				
1、目的・目標を明確にする。 2、介護過程の評価まで行うので、計画・予定をしっかりとイメージして自分の行動計画を明確にする。 3、総合的に、技術面も確認できるようにする。 4、チームの連携について理解する。 5、3段階実習への心構えを態度、知識、技術面でも確認する。				
到達目標				
1、介護過程の展開を軸とした介護実習の目的と目標を理解する。 （情報収集・アセスメント・計画立案まで実施および評価までできる。） 2、実習Ⅱであるため、他の科目での学習を結びつけ、総合的に実習に取り組む準備をして、充実した実習にする。 3、自分の傾向を知り、評価する必要性を理解する。				
準備学習				
特になし				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 評価の方法 実習施設評価・担当教員評価（実習前・中・後の状況）・実習報告会の総合評価				
使用テキスト	中央法規「介護総合演習」			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	実習前指導	オリエンテーション・実習記録確認
2	実習前指導	予定計画表の説明（実習指導者に確認してもらうこと）
3	実習前指導	目標と介護過程
4	実習前指導	個々の目標との照らし合わせ
5	実習前指導	巡回時確認事項
6	実習前指導	実習の手引き読み合わせ
7	実習中指導	帰校日
8	実習中指導	帰校日
9	実習中指導	帰校日
10	実習中指導	帰校日
11	実習後指導	ファイルまとめ
12	実習後指導	ファイルまとめ
13	実習後指導	ファイルまとめ
14	実習後指導	実習報告会
15	実習後指導	実習報告会

令和7年度 シラバス				
科目名	介護実習 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	4	実習
担当教員	小菅 真理子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
施設での現場実習を通して、施設実習と居宅系実習を経験し、コミュニケーション技術を中心に多様な介護現場における利用者を理解する。生活支援技術においては学校で学んだ基礎的技術と利用者に合わせた応用技術を見学や実施を通して理解する。地域における様々な場において利用者の生活や家族についても理解を深める。				
到達目標				
介護福祉士として必要な態度・姿勢を養うと共に、基本的な介護に関する知識と技術を実践することができる				
①施設の概要を理解する				
②利用者とのコミュニケーションを通し生活全般を理解する				
③基本的な介護援助を指導者の指導のもと見学又は実施できる				
④日常生活の援助内容を理解し、生活支援技術を見学又は実施できる				
準備学習				
準備学習は、「介護総合演習Ⅱ」でおこなわれる実習準備に該当する。当該シラバスを参照すること。				
成績評価				
実習Ⅰにおいては、以下の内容で評価する				
※施設施設・実習指導者からの評価を基本に、専任教員による評価を合わせたもの（施設評価、実習記録、実習態度等評価を総合し算出する）				
使用テキスト	介護実習において必要な書類は以下の通りとなる。			
	①実習ファイル			
	②実習の手引き			
	③必要な科目の教科書各種			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	施設実習1日目	・実習内容は、各施設・事業所によって異なり、指導者の指導のもと、現場実習をおこなっていく。
2	施設実習2日目	
3	施設実習3日目	介護実習中のおおまかな流れは以下の通り。
4	施設実習4日目	※施設実習と居宅・通所・障害系実習の日程が逆になる場合もある。
5	施設実習5日目	【施設実習の場合】
6	施設実習6日目	第1週目：施設の概要を理解し、利用者の暮らし方や生活状況を知る
7	施設実習7日目	①利用者の安全な生活環境を理解する
8	施設実習8日目	②コミュニケーションを図り、利用者を理解する
9	施設実習9日目	③介護職の業務の一日の流れを知る
10	施設実習10日目	④利用者の生活日課を理解する
11	施設実習11日目	第2・3週目：利用者の個性にあった生活支援技術の見学や実施を通して利用者を理解する
12	施設実習12日目	①コミュニケーションを図り利用者を理解する
13	居宅・通所・障害系実習1日目	②利用者の個性にあった生活支援技術を通して利用者を理解する
14	居宅・通所・障害系実習2日目	第4週目：居宅・デイ・地域密着サービス・障害者施設のいずれかの事業所・施設で5日間の実習をおこなう
15	居宅・通所・障害系実習3日目	①コミュニケーションや観察を通して利用者を理解する
16	居宅・通所・障害系実習4日目	②通所施設、地域密着サービス、障害者施設の概要を理解する
17	居宅・通所・障害系実習5日目	③利用者の個性に合った援助方法を見学あるいは実施する
		※施設実習に有料老人ホームと一部の高齢者施設を選択した場合は、地域密着型サービス及び障害者施設との組み合わせとなる
		※総実習数17日間のほか、帰校日2日間が組み込まれる

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
科目名	介護実習Ⅱ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
介護福祉学科	2年	前期	5	実習	1	施設実習1日目	【第2段階実習での達成目標】 ①介護過程の展開 ・利用者の選定 ・情報収集、情報の解釈・関連付け・統合化 ・課題分析 ・個別援助計画の立案  ②基本的な生活支援技術の見学・実践 ・安全・安楽に配慮した生活支援技術の実践 ・生活支援技術を通し、個々の利用者の個性を理解  ③チーム連携の理解 ・早番、遅番などの変則的勤務を体験し、利用者の生活を理解 ・介護職同士の連携を通じ、介護福祉士としての役割を理解 ・生活支援技術を通し、他職種協働の必要性を理解
担当教員	川村仁美				2	施設実習2日目	
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。				3	施設実習3日目	
授業概要					4	施設実習4日目	
個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場における個別ケアを理解する。また、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成といった一連の介護過程を展開を行う。他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を身につける。					5	施設実習5日目	
到達目標					6	施設実習6日目	
・身体面、精神面、社会面、環境面を通して利用者理解を深めることができる ・情報収集から計画の立案までの個別の介護過程を理解し、展開できる ・多職種との協働・連携を学び、介護福祉士としての役割を理解できる ・早番、遅番を含めた関わりを通して、利用者の1日の過ごし方や生活支援を理解できる					7	施設実習7日目	
準備学習					8	施設実習8日目	
・ホームページなどから施設概要を知り、第2段階実習施設への理解を深める ・基本的な生活支援技術の振り返りを行う ・「介護過程Ⅲ」を学び、介護過程の展開に向けた知識を修得する					9	施設実習9日目	
成績評価					10	施設実習10日目	
下記により総合的に評価を行う ・第2段階実習施設の評価    ・実習前、帰校日、実習後の状況など専任教員による評価					11	施設実習11日目	
使用テキスト	・実習ファイル ・介護実習の手引き ・第2段階実習に必要な教科書				12	施設実習12日目	
					13	施設実習13日目	
					14	施設実習14日目	
					15	施設実習15日目	
					16	施設実習16日目	
					17	施設実習17日目	
					18	施設実習18日目	
					19	施設実習19日目	
					20	施設実習20日目	

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
科目名	介護実習Ⅲ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
介護福祉学科	2年	後期	5	実習	1	施設実習	【第3段階実習での達成目標】 ①介護過程の展開 ・利用者の選定 ・情報収集、情報の解釈・関連付け・統合化 ・課題分析 ・個別援助計画の立案、実施、評価  ②基本的な生活支援技術の見学・実践 ・安全・安楽に配慮した生活支援技術の実践 ・生活支援技術を通し、個々の利用者の個別性を理解  ③チーム連携の理解 ・早番、遅番などの変則的勤務を体験し、利用者の生活を理解 ・介護職同士の連携を通じ、介護福祉士としての役割を理解 ・生活支援技術を通し、他職種協働の必要性を理解
担当教員	谷内美和子				2	施設実習	
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。				3	施設実習	
授業概要					4	施設実習	
1 施設実習で、様々な勤務体制（早番、遅番、夜勤）を通して生活支援を理解する。 2 ケース会議に参加し、利用者に対する支援内容から他職種の専門性を理解する。 3 生活支援技術を安全安楽に配慮し実践する。 4 介護過程を展開する。					5	施設実習	
到達目標					6	施設実習	
1 介護過程の一連の流れが理解でき介護の実践・評価ができる。 2 自己の役割を理解し、チームケアを提供する一員として多職種との連携が図れる。					7	施設実習	
準備学習					8	施設実習	
特になし					9	施設実習	
成績評価					10	施設実習	
実習施設評価と専任教員評価の総合評価					11	施設実習	
使用テキスト	中央法規「介護総合演習」 中央法規「介護過程」				12	施設実習	
					13	施設実習	
					14	施設実習	
					15	施設実習	
					16	施設実習	
					17	施設実習	
					18	施設実習	
					19	施設実習	
					20	施設実習	



令和7年度 シラバス				
科目名	こころとからだのしくみ I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	谷内美和子			
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。			
授業概要				
人体の構造や機能を理解し利用者の健康、命を踏まえた支援の根拠を学ぶ。				
到達目標				
・ 人体の構造や働きの理解を深め、日常生活行動との関連付けができる。 ・ 介護福祉士として利用者の健康、命を踏まえた生活支援を実施するために、その基本知識が理解できる。"				
準備学習				
特になし				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	こころとからだのしくみ「中央法規」 人体解剖図「成美堂出版」			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	健康とは何か	健康の定義・人間の欲求
2	からだのしくみを理解する	人体の構造と機能 体の各部の名称
3	からだのしくみを理解する	全身の骨格・骨の働き
4	からだのしくみを理解する	全身の筋肉・関節の働き
5	からだのしくみを理解する	生命活動を調整するしくみ・自律神経・ホメオスタシス
6	からだのしくみを理解する	脳のつくりと働き・中枢神経
7	からだのしくみを理解する	脳のつくりと働き・末梢神経
8	こころのしくみを理解する	認知のしくみ
9	こころのしくみを理解する	防衛機制
10	からだのしくみを理解する	循環器の構造と機能
11	からだのしくみを理解する	呼吸器の構造と機能
12	からだのしくみを理解する	泌尿器の構造と機能
13	からだのしくみを理解する	消化器の構造と機能 1
14	からだのしくみを理解する	消化器の構造と機能 2
15	からだのしくみを理解する	内分泌の構造と機能
16	からだのしくみを理解する	感覚器の構造と機能1
17	からだのしくみを理解する	感覚器の構造と機能2
18	からだのしくみを理解する	血液の構造と機能
19	からだのしくみを理解する	免疫機能・まとめ
20	期末試験	期末試験60分・解答解説30分

令和7年度 シラバス				
科目名	こころとからだのしくみⅡ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	谷内 美和子			
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。			
授業概要				
各器官における代表的疾患や障害を理解する。こころとからだのしくみⅠからの生理解剖の復習を加えながら、生活支援の場面に応じた知識を深める。生活障害のメカニズムについての基礎的知識を教科書、事例などを通して学ぶ。				
到達目標				
生活支援の場面に応じた心身の機能低下や障害を理解する。 ・心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイントや判断力の基盤となる知識を身につける。医療職との連携について理解する。 ・身体的な機能を理解することにより支援の科学的根拠を考える力を養う。				
準備学習				
特になし				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	こころとからだのしくみ「中央法規」 人体解剖図「成美堂出版」			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	移動のしくみ	基本的姿勢・ボディメカニクス
2	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	運動器疾患
3	変化の気づきと対応	脳血管疾患・パーキンソン病
4	身じたくのしくみ	感覚器について
5	心身の機能低下がみじたくに及ぼす影響	眼疾患
6	心身の機能低下がみじたくに及ぼす影響	耳の疾患・口腔疾患
7	食事のしくみ	摂食・嚥下のしくみ
8	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	嚥下障害・球麻痺
9	変化の気づきと対応	緊急を伴う異常（誤嚥・窒息）
10	入浴のしくみ	入浴の効果・三大生理作用・皮膚の構造
11	心身の機能低下が入浴に及ぼす影響	加齢に伴う皮膚機能の変化・かゆみ・かぶれ
12	心身の機能低下が入浴に及ぼす影響	高血圧・心疾患・呼吸器疾患の入浴
13	変化の気づきと対応	温度変化の影響・観察
14	排泄（排尿）のしくみ	畜尿期・排尿期
15	心身の機能低下が排尿に及ぼす影響	尿失禁
16	排泄（排便）のしくみ・変化の気づきと対応	排便のしくみ・便秘・下痢への対応
17	睡眠のしくみ	睡眠のしくみ
18	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響	睡眠障害
19	変化の気づきと対応	緊急対応が必要な例・まとめ（期末試験対策）
20	期末試験	期末試験60分・解答解説30分

## 令和7年度 シラバス

科目名	こころとからだのしくみⅢ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	後期	1	講義
担当教員	鈴木正貴			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			

授業概要
------

人はどのような状況(環境)・どのような障害をもったとしても「自分らしく生きる」ことを保障されていることを学ぶ。共生社会がさげられる中、支援の基本的な視点を理解することを目指す。また、個人ワークやグループワークを取り入れ、自分で考え他者に伝える力を養う。

到達目標
------

障害者とは制度としての名称であり、人を支援することにおいてはすべての障害は個性であり、障害者として支援するのではなく個性あるひとりの人間であるという基本的な考え方を理解することがねらいである。また、すべての人がもつ強みをみつける視点やかかわり方、支援方法を習得することを目標とする。

準備學習

キストを事前学習し、講義内容を把握する。

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。  
定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	中央法規出版「新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」 レジュメ・資料
--------	---

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

授業計画	
------	--

[illegible]

## 令和7年度 シラバス

科目名	こころとからだのしくみⅣ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	谷内美和子			
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。			

授業概要
------

- 1、介護福祉士として緊急時・終末期の対応の必要性を理解する。
- 2、人体の構造を理解し、観察技法を応用させた適切な緊急時・終末期の対応法を学ぶ。
- 3、利用者、家族の精神的変化を理解した上で、その対応について考え、理解する。

到達目標
------

- 1、介護福祉士として緊急時や終末期における心身状態の変化を理解し、適切な対応法を学ぶ。
- 2、緊急時・終末期における利用者、家族の精神的な変化を理解する。

準備學習

特になし

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。

定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	中央法規「こころとからだのしくみ」 配布資料
--------	---------------------------

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

授業計画
------

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	発達と老化の理解 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	佐藤真基子			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
「発達と老化の理解 I」は、人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的知識を学習する科目です。				
到達目標				
①成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因など基礎的な知識が理解できる ②ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題および特徴的な疾病が理解できる ③老年期の特徴と発達課題が理解できる				
準備学習				
事前学習：前回の学びを振り返り、講義内容を把握しておく。 事後学習：授業内容を振り返り、学びを深める。新たな疑問点や課題を明確にしておく。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	・発達と老化の理解（中央法規） ・配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	人間の成長と発達の基礎的知識①	授業概要の説明/成長・発達の考え方
2	人間の成長と発達の基礎的知識②	成長・発達の原則・法則
3	人間の成長と発達の基礎的知識③	成長・発達に影響する要因①
4	人間の成長と発達の基礎的知識④	成長・発達に影響する要因②
5	人間の発達段階と発達課題①	発達段階と発達課題① ピアジェの認知発達理論
6	人間の発達段階と発達課題②	発達段階と発達課題② エリクソン・ハヴィーガーストの発達段階説
7	人間の発達段階と発達課題③	身体的機能の成長と発達
8	人間の発達段階と発達課題④	心理的機能の成長と発達
9	人間の発達段階と発達課題⑤	社会的機能の成長と発達①
10	人間の発達段階と発達課題⑥	社会的機能の成長と発達②
11	老年期の特徴と発達課題①	老年期の定義
12	老年期の特徴と発達課題②	老化とは
13	老年期の特徴と発達課題③	老年期の発達課題①
14	老年期の特徴と発達課題④	老年期の発達課題②/老年期をめぐる今日的課題
15	まとめ	筆記試験

令和7年度 シラバス				
科目名	発達と老化の理解Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	後期	1	講義
担当教員	反町 拓			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
医療・福祉の現場では高齢者に対応する機会が多い。この授業では、人間がどのようなライフステージを経て発達し、成熟し、老いていくのか、身体的・心理的・社会的側面からとらえ、その対応に必要な知識について習得していただく。とくに高齢者に多い症状・疾病の特徴、生活上の留意点などを詳しく学んでいただく。				
到達目標				
・高齢者に多い症状や疾患の特徴について説明できる。 ・高齢者に多い疾患症状と生活のかかわりについて理解し、留意点や予防方法について説明できる。 ・介護福祉士同士や他の保健医療職との連携について説明できる。				
準備学習				
・本シラバスを参考に各回のテーマの特に重要な部分について、教本を下読みしておくこと。 ・各回で扱ったテーマについて、ポイントをノートなどにまとめ、知識を整理しておくこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会 編 最新 介護福祉士養成講座 1 2 発達と老化の理解 中央法規			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方の説明 発達と老化の理解Ⅰのおさらい
2	健康長寿に向けての健康①	我が国における高齢者の現状と施策
3	高齢者に多い症状・疾患の特徴①	廃用症候群 老年症候群 ロコモ・サルコペニア・フレイルなど
4	高齢者に多い症状・疾患の特徴②	変性疾患 難病 悪性腫瘍
5	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点①	運動器① 運動器系の構造のおさらい 整形外科疾患（1）
6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点②	運動器② 整形外科疾患（2）
7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③	脳・神経① 脳・神経系の構造のおさらい 脳血管障害
8	振り返り①	授業前半の振り返り、知識の整理、小テスト
9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④	脳・神経② パーキンソン病 感覚器の障害（眼・耳・の疾患）
10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤	循環器系、呼吸器系
11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥	腎・泌尿器系、内分泌・代謝系（おもに糖尿病）
12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦	口腔・嚥下系 皮膚 感染症
13	保健医療職との連携	保健医療職の連携の在り方
14	振り返り②	授業全体の振り返り、知識の整理
15	まとめ	定期試験と解説、授業のまとめ

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <介護福祉学科>

科目名	認知症の理解 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	反町 拓			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

授業概要
・超高齢社会を迎えているわが国にとって、認知症患者への対応は大きな社会課題となっている。本授業では認知症とはどのような特徴をもった疾患で、どのような治療、予防法があるのか学び、介護・福祉領域における具体的なケアの方法や支援策について理解を深めていただく。
到達目標
・認知症とはどのような疾患か、基本的な説明ができる。 ・認知症の症状・診断・治療・予防について説明ができる。 ・認知症ケアの理念と支援の方法について説明ができる。
準備学習
・本シラバスを参考に各回のテーマの特に重要な部分について、教本を下読みしておくこと。 ・各回で扱ったテーマについて、ポイントをノートなどにまとめ、知識を整理しておくこと。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会 編集 最新 介護福祉士養成講座 1 3 「認知症の理解」 中央法規
--------	---

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方の説明、認知症とは何か
2	認知症の基礎理解①	脳のしくみ(脳の解剖生理)
3	認知症の基礎理解②	認知症の人の心理
4	認知症の症状・診断・治療・予防①	中核症状の理解
5	認知症の症状・診断・治療・予防②	生活障害の理解 BPSDの理解
6	認知症の症状・診断・治療・予防③	認知症の診断と重症度
7	認知症の症状・診断・治療・予防④	認知症の原因疾患と症状・生活障害
8	振り返り①	授業前半の振り返り、知識の整理、小テスト
9	認知症の症状・診断・治療・予防⑤	認知症の治療法・治療薬
10	認知症の症状・診断・治療・予防⑥	認知症の予防
11	障害をかかえて生きることへの支援①	認知症を取り巻く状況
12	障害をかかえて生きることへの支援②	認知症ケアの理念と視点
13	障害をかかえて生きることへの支援③	認知症当事者の視点
14	振り返り②	授業全体の振り返り、知識の整理
15	まとめ	定期試験と解説、授業のまとめ

令和7年度 シラバス				
科目名	認知症の理解Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	反町 拓			
実務経験	医療施設等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
・超高齢社会を迎えているわが国にとって、認知症患者への対応は大きな社会課題となっている。本授業では「認知症の理解Ⅰ」で学んだ知識を基礎に、介護・福祉領域における認知症ケアの実践方法、ケア技法、環境整備、介護者支援、認知症施策、多職種連携などについて学んでいただく。				
到達目標				
・認知症ケアの実践について具体的な方法を説明できる。 ・認知症に対する環境整備について説明ができる。 ・認知症に携わる者（家族、介護者、職員）に対する役割や支援について説明ができる。				
準備学習				
・本シラバスを参考に各回のテーマの特に重要な部分について、教本を下読みしておくこと。 ・各回で扱ったテーマについて、ポイントをノートなどにまとめ、知識を整理しておくこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会 編集 最新 介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」 中央法規			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方の説明、認知症の知識のおさらい
2	認知症ケアの実際①	パーソン・センタード・ケア
3	認知症ケアの実際②	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール
4	認知症ケアの実際③	認知症の人とのコミュニケーション
5	認知症ケアの実際④	認知症の人へのケア
6	認知症ケアの実際⑤	認知症の人へのさまざまなアプローチ（1）ユマニチュード・バリデーション
7	認知症ケアの実際⑤	認知症の人へのさまざまなアプローチ（2）
8	振り返り①	授業前半の振り返り、知識の整理、小テスト
9	認知症ケアの実際⑥	認知症の人の終末期医療と介護
10	認知症ケアの実際⑦	環境づくり 住環境整備（1）
11	認知症ケアの実際⑧	環境づくり 住環境整備（2）
12	介護者支援	家族・介護福祉職への支援
13	認知症の人の地域生活支援	制度、サービス、機関、地域づくり、多職種連携と協働
14	振り返り②	授業全体の振り返り、知識の整理
15	まとめ	定期試験と解説、授業のまとめ



令和7年度 シラバス				
科目名	障害の理解 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	前期	1	講義
担当教員	川村仁美			
実務経験	介護施設等において、介護福祉士としての実務経験を有する。			
授業概要				
<p>障害がある人の心身構造や機能及び課題について理解し、身体的・心理的・社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>また、障害のある人が地域で自立生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について、基礎的な知識を身につけ、本人や家族・地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための学習とする。</p>				
到達目標				
<p>・障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる</p> <p>・ライフステージや障害特性を踏まえ、Q O L を高める支援につなぐことができる</p> <p>・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる</p>				
準備学習				
<p>【講義前】UMUにて配布される講義資料を確認すること</p> <p>【講義後】講義で学習した範囲を自宅等で振り返り、復習すること</p> <p>小テストの問題を振り返り、国家試験の出題問題や傾向を理解すること</p>				
成績評価				
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解【第2版】 介護福祉士養成講座編集委員会/編集 中央法規出版株式会社/発行			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	障害の概念と障害者福祉の基本理念 1	オリエンテーション／障害の概念（障害のとらえ方、障害者の定義）
2	障害の概念と障害者福祉の基本理念 2	障害の概念（ICIDH、ICF）／障害のある人の心理
3	障害の概念と障害者福祉の基本理念 3	障害者福祉の基本理念
4	障害の概念と障害者福祉の基本理念 4	障害者福祉に関連する制度／障害者福祉制度と介護保険制度
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 1	肢体不自由（運動機能障害）
6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 2	視覚障害および聴覚・言語障害
7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 3	重複障害および重症心身障害
8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 4	知的障害
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 5	精神障害
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 6	高次脳機能障害
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 7	発達障害
12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 8	難病
13	連携と協働	地域のサポート体制／チームアプローチ
14	家族への支援	家族への支援／家族の介護力の評価と介護負担の軽減
15	定期試験	期末試験および解説
		※小テストの実施は、都度お伝えします

令和7年度 シラバス				
科目名	障害の理解Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	1年	後期	1	講義
担当教員	谷内美和子			
実務経験	実務経験	谷内：医療施設等において、看護師としての実務経験を有す 堀：厚生労働省委託 手話通訳指導者養成講座修了他		
授業概要				
1～5回：聴覚障害について、またそれに関わる知識、福祉について理解する（手話の実技を含む） 6～15回：内部障害について、心臓機能・呼吸器機能・腎機能など7つの内部障害について医学的 理解と生活の留意点を理解を講義・スライドを通して学ぶ。				
到達目標				
（内部障害） 内部障害の医学的理解ができ、その病態に応じた介護のあり方を考えることができる。内部障害の病態 の理解をする。 一見分かりにくい内部障害のある生活のしづらさを学び理解する。				
準備学習				
特になし				
成績評価				
▼成績評価の方法 聴覚障害：定期試験の得点により評価する（筆記70%+実技30%） 内部障害は定期試験のみ、聴覚障害と内部障害の合算で評価する。				
使用テキスト	聴覚障害：『手にことばを 初級用』公益社団法人東京聴覚障害者総合支 援機構 東京都聴覚障害者連盟発行『手話で防災～聴覚障害者の災害 時支援のために～』一般財団法人 全日本ろうあ連盟発行  内部障害：中央法規「障害の理解」			

アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	聴覚障害	オリエンテーション：学習の進め方について
2	聴覚障害	自己紹介表現（名前・家族・数字）講義：聴覚障害とは？
3	聴覚障害	講義：聴覚障害者のコミュニケーションについて
4	聴覚障害	介護で使える手話を覚えてみよう
5	聴覚障害	期末(授業内)試験（筆記・手話会話実技）
6	内部障害	内部障害とは
7	内部障害	心臓機能障害
8	内部障害	呼吸機能障害
9	内部障害	じん臓機能障害
10	内部障害	排泄器官の機能障害 人工・膀胱・泌尿器機能障害：留置カテーテル操作 の留意点観察項目
11	内部障害	排泄器官の機能障害 人工肛門について
12	内部障害	小腸の機能障害
13	内部障害	肝臓機能障害について
14	内部障害	ヒト免疫不全ウイルス
15	内部障害	期末試験60分・解答解説30分

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <介護福祉学科>

科目名	医療的ケア I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
介護福祉学科	2年	前期,後期	2	講義
担当教員	岩永 秀子			
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。			

授業概要
2011（平成23）年の法改正により、介護福祉士等も日常生活を営むのに必要な医行為（医療的ケア：喀痰吸引、経管栄養）を業として行えるようになった。本科目では、専門職として医療的ケアを安全・適切に提供するために必要な基礎的知識、技術および態度を理解できるように授業を行う。
到達目標
1．介護福祉職による医療的ケアに係る制度や倫理、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な救急蘇生、感染予防、健康状態の把握について理解する。 2．喀痰吸引および経管栄養を安全・適切に実施するために必要な基礎的知識、実施手順とその留意点について理解する。
準備学習
・ノート作成：授業内容を要約し、重要なポイントをノートにまとめる。 ・毎回2コマ連続の最初に確認テストを行う。確認テストの範囲は、前回2コマの授業内容を主とした既習学習内容とする（成績評価対象外）。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価とする。

使用テキスト	中央法規 医療的ケア
--------	------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	医療的ケア実施の基礎①	医療的ケアとは、医行為について
2	医療的ケア実施の基礎②	喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸引等の背景、その他の制度
3	医療的ケア実施の基礎③	安全な療養生活
4	医療的ケア実施の基礎④	感染予防
5	医療的ケア実施の基礎⑤	介護福祉職の感染予防、療養環境の清潔・消毒法、消毒と滅菌
6	医療的ケア実施の基礎⑥	健康状態の把握（＊バイタルサインの詳細は後期）
7	喀痰吸引①	喀痰吸引概論：呼吸のしくみとはたらき
8	喀痰吸引②	喀痰吸引概論：いつもと違う呼吸状態
9	喀痰吸引③	喀痰吸引概論：喀痰吸引とは
10	喀痰吸引④	喀痰吸引概論：人工呼吸器と吸引、子どもの吸引、感染予防
11	喀痰吸引⑤	喀痰吸引実施手順：用いる器具・器材のしくみ、清潔保持
12	喀痰吸引⑥	喀痰吸引実施手順：技術と留意点、ともなうケア、報告・記録
13	経管栄養①	経管栄養概論：消化器系のしくみとはたらき
14	経管栄養②	経管栄養概論：消化・吸収とよくある消化器の症状
15	経管栄養③	経管栄養概論：経管栄養とは、注入する栄養剤に関する知識
16	経管栄養④	経管栄養概論：実施上の留意点、子どもの経管栄養、感染予防
17	喀痰吸引⑦	<喀痰吸引実施手順：手順とポイント（演習直前）>
18	喀痰吸引⑧	<喀痰吸引実施手順：手順とポイント（演習直前）>
19	経管栄養⑤	経管栄養実施手順：用いる器具・器材のしくみ、清潔保持
20	経管栄養⑥	経管栄養実施手順：技術と留意点、必要なケア、報告・記録

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜介護福祉学科＞		
科目名	医療的ケアⅡ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
介護福祉学科	2年	前期,後期	1	講義	1	喀痰吸引	口腔内・鼻腔内吸引
担当教員	谷内美和子				2	喀痰吸引	口腔内・鼻腔内吸引
実務経験	医療施設等において、看護師としての実務経験を有する。				3	喀痰吸引	口腔内・鼻腔内吸引
授業概要					4	喀痰吸引	気管内チューブ吸引
経管栄養：演習評価票の手順で実施する。胃瘻または腸瘻による経管栄養5回以上					5	喀痰吸引	気管内チューブ吸引
2、喀痰吸引：演習評価票の手順で実施する。					6	喀痰吸引	気管内チューブ吸引
口腔内・鼻腔内喀たん吸引 各5回以上					7	経管栄養	経鼻経管栄養
気管カニューレ内部吸引 5回以上					8	経管栄養	経鼻経管栄養
到達目標					9	経管栄養	経鼻経管栄養
1、医療的ケア（経管栄養）を安全に行う、知識、技術を学ぶ。					10	経管栄養	胃ろう経管栄養
① 経管栄養のしくみと種類を学ぶ。					11	経管栄養	胃ろう経管栄養
② 経管栄養の管理法を学ぶ					12	経管栄養	胃ろう経管栄養
2、医療的ケア（喀痰吸引）を安全に行う、知識、技術を学ぶ。					13	救命救急	心肺蘇生（1人1回）
① 喀痰吸引のしくみと種類を学ぶ。					14	救命救急	事例検討 1
② 喀痰吸引の管理法を学ぶ 3、救命救急（1人1回）					15	救命救急	事例検討 2
準備学習							
特になし							
成績評価							
評価表に基づき、実技の担当教員評価							
使用テキスト	中央法規「医療的ケア」						